

地元の書店

2025.1.21

2冊目となる拙著『人生は、燐燐と 校長室だより100選』を出版していただいた文芸社からメールが届いた。福島県内の岩瀬書店各店から5冊ずつ発注があったとのことだった。福島市、郡山市、会津若松市の岩瀬書店に本が入るらしい。数日後、今度は、福島市の西澤書店から10冊の発注があったとの連絡がきた。どちらの書店も、文芸社の提携書店ではないため、拙著が並ぶことはないだろうとあきらめていた。ところが、予想だにしない展開となった。ありがたい。

自分の本が、どのように並ぶのか、実際に見たくなった。早速、自宅から一番近い岩瀬書店ヨークベニマル福島西店に行ってみた。書店に入ると、平積みのコーナーがあった。売り出し中の本が並ぶコーナーである。今が旬である郡山市出身の芥川賞受賞作家の本がある。著名な詩人である和合亮一さんの本がある。憧れの伊集院静さんの本もある。西田敏行さんに関する本もある。いずれも話題性のある本である。すると、見覚えのある表紙が目に飛び込んできた。「あった！」自分の本があるではないか。我が目を疑った。こんなメインのコーナーに置いていただいてよいのだろうか。それも、平積みである。自己肯定感の低い男も、さすがに嬉しくなった。いや、感謝の念が湧いてきた。

他の岩瀬書店も見たくなってきた。岩瀬書店八木田店に行ってみた。さすがに入ってすぐのメインコーナーにはなかった。うろうろしていると、「ふくしまの本」コーナーを見つけた。1冊目の拙著である『表現者を育てる授業－中学校国語実践記録－』は、このコーナーに置いていただいた。今回は、まさかないだろうと思っていたところ「あった！」表紙が見えるように立ててある。平積みよりも目につきやすい。隣には、和合亮一さんの本があった。何だか申し訳なかった。

郡山にある岩瀬書店富久山店にも行った。この書店は、県内では一番大きい。いったいどこにあるのか。果たして置いてあるのか。店内を一回りした。なかつた。やっぱり、それはそうだろう。あきらめて帰ろうかと思ったが、ふと、もしかして教育書コーナーにあるかもしれないという考えが浮かんだ。この書店には、教育書コーナーがある。行ってみた。メインの立てかけ、平積みのコーナーを見てみた。「あった！」今、話題の教育書と隣同士である。立てかけてある。目につきやすい。

いったい、どうしたというのだろう。何だか、お礼を言いたくなってきた。「ありがとうございます」誰に言ったらよいのかわからない。文芸社も著者本人も、何もしていない。にもかかわらずである。残りの岩瀬書店にも行ってみたくなった。西澤書店にも行かなければならない。ネットも確認してみた。アマゾンには、20冊も入荷していた。これも、ありがたい。

全国の書店やネットで取り扱っていただいているだけでもありがたい。その上、地元の書店にここまでしていただけとは、感謝しかない。やはり、地元の書店は心強い。